

平成27年 2月13日

各 位

会 社 名 アライドテレシスホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長 大 嶋 章 禎
(コード番号：6835 東証第2部)
問合せ先 I R部長 徳光 盛次
(TEL：03-5437-6007)
(URL <http://www.at-global.com/>)

通期業績予想値と実績値との差異、剰余金の配当の見送り
および特別損失（連結・個別）の発生に関するお知らせ

平成26年2月12日に公表しました平成26年12月期の通期業績予想と本日発表の実績に差異が発生しましたので、その概要をお知らせするとともに、剰余金の配当の見送りおよび特別損失の発生について、下記の通りお知らせいたします。

記

●平成26年12月期連結業績予想数値との差異（平成26年1月1日～平成26年12月31日）

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	34,300	700	550	100	△0円87銭
今 回 実 績 (B)	30,217	△1,843	△367	△3,954	△36円33銭
増 減 額 (B - A)	△4,083	△2,543	△917	△4,054	
増 減 率 (%)	△11.9%	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成25年12月期)	29,924	△1,284	761	95	0円83銭

差異の理由

当期通期連結業績につきましては、売上高は、日本において上期に堅調であった代理店間接販売が下期にかけて減速したことに加えて、パートナー製品の無線 LAN 機器の入荷が停止したことなどが下振れの原因となりました。

海外においては EU によるロシアへの輸出規制により同地域での売上が伸び悩んだことや、タイの公共案件の遅延などが響き、予想値を下回りました。

損益面につきましては、期末にかけて円安が進行したことにより、国内販売の仕入原価や研究開発費が上昇したことが収益を圧迫し、営業利益はマイナスとなりました。また、外貨建て資産・負債の評価益として為替差益 15 億 59 百万円が発生し、経常損失幅の縮小に幾分寄与したものの、固定資産の減損処理などにより特別損失 29 億 65 百万円※を計上し、当期純利益は予想を大きく下回る結果となりました。

※特別損失の詳細については、次ページの「特別損失の発生およびその内容」をご覧ください。

●剰余金の配当の見送りについて

配当の内容

	決 定 額	直近の配当予想 (平成26年2月12日公表)	前期実績 (平成25年12月期)
基 準 日	平成26年12月31日	平成26年12月31日	平成25年12月31日
1株当たり配当金	0円00銭	2円00銭	3円00銭
配当金の総額	—	—	347百万円
効力発生日	—	—	平成26年3月26日
配当原資	—	—	利益剰余金

理由

当社は、安定的かつ継続的な株主への利益還元を経営課題として考えるとともに、経営基盤の強化と財務体質の健全性の保持に努めております。その上で業績に応じた株主への利益還元を実施することを基本方針としています。しかしながら、上記に記載しましたように、平成26年12月期では大幅な当期純損失を計上いたしました。誠に遺憾ではございますが、配当の実施を見送らせていただくことといたしました。

●特別損失の発生およびその内容

第4四半期において建物及び構築物、工具、器具及び備品ならびにソフトウェア等の固定資産の減損処理を行い、減損損失として28億97百万円（連結）、11億47百万円（個別）を計上しました。また、平成26年10月3日に公表しましたPoEスイッチ製品の自主回収につきまして、製品自主回収関連費用として67百万円（連結）を計上しました。これにより、当期の特別損失の合計額は29億65百万円（連結）、13億16百万円（個別）であります。

以 上